

学 園 通 信



No. 261

九里学園高等学校 P T A

2015.3.3 発行



九里の絆 卒業おめでとう!



校長からの一言

学校長 九里 廣志

今回は、副校長の笹原先生に思いを書いていたいただきました。私がいつも思っていることと同じ思いを書いてくださっています。そこでつくづく実感したことは、「この『九里学園の教育』は、その年々に赴任した先生たちが集まって、その時々の方々の思いで行なっている公立学校の教育とは違って、一貫した思いをみんなが共有して生徒たちと対面している。」という事実でした。「これこそが私学の教育だ！」と思います。

いま日本は大きな曲がり角にあると思っています。これから生きている日本の、そして世界の人々に、『不安なく、本当の幸せを実感できる、夢のある社会作りができる力を身に付けさせること』が、教育の果たすべき役割であり、私たち大人の仕事だと思っています。これからも保護者の方々とも一緒に、九里ファミリーのお付き合いをよろしくお願いいたします。



「三年間の学びに自信を持って」

副校長 笹原 裕一

二〇一五年一月七日、フランスの週刊誌『シャルリ・エブド』社がテロリストたちに襲撃され編集者たちが殺害される事件が起きました。イスラムの預言者はずかしめる風刺画を掲載したことが事件の発端でした。

ちなみに風刺画とは政治や社会のようす、人物を批判的にしかも面白くおかしく描いたものです。私の中学時代の教科書に掲載されていた、日清戦争のころの風刺画で、フランス人のビゴが描いたものがあります。インターネットでは是非「日清戦争 ビゴ」で検索してみてください。

一月十一日にパリ市内でこの事件に抗議する大規模な行進がありました。集まった人々はペンを持ち、*Je Suis Charlie*（ジュスイシャルリ「私はシャルリ」）というスローガンを掲げて行進をしました。テロに対する抗議と表現の自由・言論の自由は決して暴力には屈しないというメッセージでした。しかし『シャルリ・エブド』社の風刺画と表現の自由・言論の自由についてはフランスのみならず世界中で議論がわきおこっています。

ローマ法王は「神の名をかたって行われる悲惨な暴力は断じて正当化で

きない」表現の自由は基本的権利であるが信仰の自由と対立する場合には制限がある」と主張したと報じられています。一方で、『シャルリ・エブド』社の編集者は「表現の自由とは『しかし』が後に付く制限付きの自由ではない」ユーモアの知性を信じている。犯人はユーモアを失っていただけだ」と言論を封殺しようとした行為を厳しく非難しました。ユーモアとは辞書によれば上品で気がきいた、人の心を和ませるような笑いと説明していますが、すくなくとも『シャルリ・エブド』社の風刺画はむしろ下品だと考えている人のほうが多いです。しかし、下品な笑いであっても、表現の自由や言論の自由は絶対的に守るべき人権だと主張する人もいます。

もうひとつ、テロ集団の「ISIS（アイシス）」日本では「イスラム国」と訳されています。このISISに拘束された後藤健二さんが殺害されるという事件がおきました。このことについて法政大学の総長である田中優子氏は「法政大学とその付属校で学び働く皆さんへ」と題したメッセージを表しました。

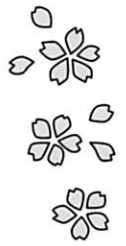
後藤健二さんは法政大学の付属高校そして社会学部の卒業生でした。次はそのメッセージから抜き出したものです。「卒業後は紛争地域で生きる弱者である子どもたちや市民の素顔を取材し、私たちに伝え続けてきたジャーナリストであり、常に平和と人権を希求して現地で仕事をされてきました。『いかなる理由があろうと、いかなる思想のもとであっても、また、世界中のいかなる国家であろうとも、人の命を奪うことで己を利する行為は、決して正当化されるものではありません。暴力によって言論の自由の要である報道の道を閉ざすことも、あつてはならないことです。』（後藤健二さんは誘拐され拘束された末、殺害されたと思われる）なぜこのような出来事が起きたのか、この問題の本当の意味での「解決」とは何か、私たちは法政大学の知性を集め、多面的に考えていきたいと思えます。』（この問題を）人ごとではなく、この世界の一員として自らの課題と捉え、後藤さんの価値ある仕事から多くを学びつつ、この問題を見る視点を少しでも深く鋭く養って欲しいと、心から願っています。」

このメッセージの中で田中優子氏は「法政大学は戦争を放棄した日本国の大学であることを、一日たりとも忘れたことはありません。」と述べています。暴力に対し武力で解決することは「本当の意味での解決」にはなりません。第二次世界大戦後、不足する労働力を補うためにかつての植民地からフランスに多くの移民がやってきました。彼らの多くはイスラム教徒であり今も貧困と差別の中で未来に展望を持たない生活を送っている人がいます。貧困と差別に目を向けなければ「本当の意味での解決」にはなりません。

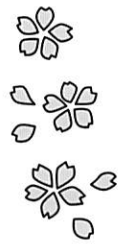
今年の二月六日、与野党の六つの政党は選挙権を持つ年齢を十八歳以上にする選挙法の改正案を現在開かれている国会に提出する方針で一致し、国会での成立は確実な情勢です。その結果、早ければ平成二十八年夏の参議院議員選挙から「十八歳以上」が実現します。したがって、卒業生のみなさんは満二十歳になる前に初めて選挙を経験することになります。そして、日本国憲法改正の国民投票権をも得ることになります。

総務省は昨年十二月の衆議院議員選挙の投票率が戦後最低の五十二・六六%だったと発表しました。なかでも二十歳代の投票率は相変わらず低く四割にも満たないものでした。「投票に行かないのも自分の政治への意思表示」という人もいます。しかし、選挙で投票しなければこの国の未来はそしてこの国に住む自分の未来は変えていくことができません。

表現の自由・言論の自由の問題は私たちの国が抱える問題でもありません。ますます狭くなる世界で異なる文化を持つ人々にどのように接していけばよいのでしょうか。暴力による解決ではない、本当の意味での「解決」とは何なのでしょう。卒業後の人生には、たやすくは解決できない問題がたくさん待ち受けています。その時の判断の指針になるのは九里学園の「礼」と「讓」そして「人間の尊厳」だと私は考えます。三年間の学びに自信を持って、正しい選択をしてほしいです。悔いのない人生を歩んでください。



ご卒業おめでとう



未来に向けて

PTA会長 齋藤 利幸

輝く希望の船出に乾杯!

三年生部会長 船山 幸二

高校卒業をふり返って

第二学年部長 田井地 清

旅立ちに向けて

第一学年部長 川又 康幸

三年生の皆さんご卒業おめでとうございます。

皆さんは、今、これからの未来に向けて、希望と不安を抱えている事と思います。正に皆さんがこれから歩もうとしている道は、決して楽しい事ばかりではありません。苦難の道を歩む人もいるかもしれません。それも人生の一つの糧ではないかと思えます。楽しい事の後には茨の道が待っているかもしれない。悲しみのどん底の後にはバラ色の未来が待っているかもしれません。皆さんが進もうとしている道は一本ではないのです。多くの道の中から自分の信じる道を失敗など恐れずただひたすら前に向かって歩んでください。それが皆さんの人生なのです。希望を持って力強く羽ばたいていく皆さんの未来に幸多かれとご祈念いたします。

九里学園を卒業される三年生の皆さん、誠におめでとうございます。小中学校での、親や先生に総てを管理されていた時代から、高校入学時、自分で「選択・決断」する事柄の多さに戸惑いながらも早や三年、先生方や友人達に鍛えられ、無事卒業できるまでに成長できました。

今後は、「自立」という更なる成長が求められる「社会人」になるわけです。おそらく皆さんが体験したことのない現実には多くの戸惑いを感じる事でしょう。乗り越えなければならぬ「難問」が次々と現れますし「即断即決の判断」も求められます。悩むのも大切な勉強です。

そんな時、原点に戻りましょう。「自分の夢・目標が何であったのか」を思いだし、それらにむかって努力してきた自分を直視してみてください。自信が湧いてくるはずですよ。九里学園の「礼と譲」の精神をもって事にあたれば、大概は、乗り越えられます。輝く希望の未来への船出に乾杯!

私が高校を卒業したのは遠い昔のこととなりましたが、今思えば、高校を卒業するというのは、小中学校とは違ってみんなそれぞれの道に進むということ、特別な思いがあったこと、記憶しています。高校卒業の時は、自分の道を切り開いていくというワクワク感がありました。自分の夢に向かって進んでいくという実感があつたからです。さらに、親から離れること、自立するという意識が高まりました。この時は、どんな夢でも簡単に叶うような錯覚をしていました。やはり、世の中そんなに甘くはありませんでした。しかし、困難は自分を強くしてくれました。そう考えると、困難に対して今ではとても感謝しています。卒業生の皆さんには、今後出会う荒波を喜びとする人間になってほしいと思います。

三年生の皆さんご卒業おめでとうございます。三年前、希望と不安を胸に入學式を迎えて以来、九里学園高校で多くの学びや出会い、たくさんの楽しいことや、苦しいことなどがあつたこと、でしょう。九里祭や研修旅行、部活動を通じて、それぞれ充実感や喜び、仲間との友情、絆を深めることができたと思います。時には気持ちすがれ違い、悩んだり、夢や目標を失いかけたこともあつたでしょう。もがき苦しみの中から生まれたものは、きっとこれからの人生の支えになることと思います。一人一人それぞれの夢や目標に対して、強い意志と継続が大切であると教えてくれます。進学される方も就職される方も、一生涯出会う学びの連続です。これからも、また次の新たな出会いと学びの場に向かって羽ばたいてください。

卒業おめでとう

～ はばたく君たちへ ～

多くの人に感謝を

第三学年主任 熊澤 広二



ご卒業おめでとう
ございます。この三年間は皆さん

ひとりひとりにとっての大切な宝物です。また、私にとっても皆さんと過ごした日々は大きな宝物です。皆さんなら、これから自分で決めた道に一生懸命取り組んでくれると信じています。大きく成長されることを期待しています。

卒業にあたり、皆さんのこれまでの高校生活を支えてくれた家族や仲間に、恥ずかしがらず感謝の気持ちを伝えて下さい。言葉や手紙だけでなく態度や今後の行動で。真の感謝の気持ちは一瞬だけのものではありません。具体的には親や家族を大切にして下さい。また隣人を大切にできる人になって下さい。社会人として再開できることを楽しみにしています。

高校生活の鮮明な記憶を

三学年副主任 鈴木 淳子



ご卒業おめでとう
う。過ぎてみればあつという間の

三年間ですが、振り返れば、心配でははらはらしたり、思いがけなくうまくいってほっとしたり、いろいろな場面が思い浮かんでくることと思います。私は、二年間皆さんと学年付きとして高校生活を共にし、この高校生活をこれから皆さんが社会にでたその時の練習になる、土台になる、そんな三年間にしてあげたいと思ってきました。いろいろなピンチの場面をどんな風に切り抜けてきたか、周囲の人たちとどんな風に力を合わせてきたか。高校時代は人生の中で一番鮮明な記憶が残るときといわれています。大変なとき、高校時代を振り返って、自分を励ましてください。そして、自分を大切にしてくださいね。

挑戦を続けよう。

三学年副主任 原田 隆弘



卒業おめでとう
ございます。これから歩んでいく人

生の中で、たくさんの経験をするでしょう。それは嬉しい事もあるれば辛い事もあります。それも一つ一つの経験となります。何事も投げ出さないうで前向きに考えていってください。

そして何事も挑戦する事を忘れないでください。やる前から無理と思ってしまうたら、何も始まりません。挑戦は勇気のいる事ですが、きっと君たちにとって財産になっていくと思います。私も最近、新たな挑戦を始めました。それは英語の勉強です。五年後の東京オリンピックで何かできる事はないか?と思つたのがきっかけです。国際的イベントではやっぱり英語は必要です。勉強は苦手ですが、自分なりに頑張っていこうと思います。これからの活躍を応援しています。頑張ってください。

1組

「与える人となろう」



担任

中山 大輔

ご卒業おめでとうございます。

高校生活の中で、誰かのためにしたことは何ですか。クラスのために頑張ったクラスマッチや九里祭、全校生のために取り組んだ生徒会活動、誰かのために行った献血やボランティア・・・たくさんの貢献をしてきたと思います。また、高校生活を通して、体力や知力、コミュニケーション能力やリーダー性などの力がそれぞれ身についています。

これから、社会人として、人のために力を発揮し、支えていって下さい。専門学校、大学へ行く人達は、より多くの人を支える力が身につくように主体的に学んで下さい。誰もが持っている自分という財産にいかにお金を投資していくか。同時に、自分にとっての幸せとは何かを考え、いかに追求していくか。自分が、そして社会の人々が幸せになれるように歩んで下さい。

思い出の三年間

高橋 佳佑

高校生活を思いかえせば、さまざまな思い出がこみあげてきます。まずは、入学式です。校長先生との握手。すごく緊張しました。

楽しみにしていた、学校生活が始まりました。九里でよかったなと思います。個性的な先生、個性的で自由豊富な友達。個性的な行事、個性的な学校。たくさんの思い出がありました。最後に、お世話になった友達、十八年間見守って下さった両親に、感謝したいです。本当にありがとうございました。



三年間の思い出

奥山 大樹

九里に入学して、いろいろな行事に参加して、たくさん思い出を作ることができました。クラスマッチ、体育祭、九里祭百人一首、各行事、クラスが協力して楽しむことができました。クラスマッチでは、三年生の時に優勝できました。百人一首でも、優勝することができました。とても三年間楽しくて、いい思い出になりました。

多くの感謝

本田 柁斗

入学した頃は知り合いがあまりいなく、楽しくやっていたけれど心配でしたが、日に日に友達も増えていき、とても充実した高校生活でした。

この三年間で、多くの思い出を作ることができ、毎日が楽しい日々でした。それと同時に、人に感謝する三年間となりました。特に友達には、いつも助けてもらい感謝しきれません。

九里に入学し、皆と出会えた事に本当に感謝しています。





さあこれからだ!



担任

小山田 努

卒業おめでとう。三年間の高校生活はどうでしたか?これから自分が決めた道に向かって着実に進んでいってほしいと願っています。

私が好きな歌の一つにコブクロの『YELL〜エール〜』という歌があります。その歌の一節をメッセージとして送ります。

「君は門出に立ってるんだ

遥かなる道をゆくんだ

誇り高き勇者のように

風立ちぬその道のどこかで

君を探してるんだ

誰かが君を待つてるんだ

思い描く夢のもよういつの日

にか

その目にその目に

so many dream」

数年後、さらに成長した君たちと会えることを楽しみにしています。

高校生活を振り返って

川又 諒眞

私にとつての三年間は、とても短いものでした。三年間のほとんどは、部活動でしたがとても充実した三年間でした。二年半、野球をしてきてたくさんの方が学べました。野球の練習だけでなく、挨拶、礼儀など、これから社会に出て行くにつれ、大切な事が学べました。九里学園で最高の仲間と野球ができたよかったです。最後にお世話になった先生方、部活動の監督、コーチ、そして高校に通わせてくれた両親に感謝です。三年間、本当にありがとうございました。



高校生活の思い出

渡部 直也

私にとつて、三年間の中で一番思い出に残っているのは、図書委員の活動です。私は図書委員の中でも、役員と言う立場になり、主に九里祭と百人一首の行事の内容を、昨年の反省を元に企画したりなど、遅くまで残つての活動をしました。最後に、お世話になった先生方見守つて下さった両親や姉に感謝したいです。

高校生活の振り返り

小坂蓮太郎

僕にとつて高校生活は、とても短いものでしたが、とても充実していました。部活動ではキャプテンを務めさせてもらい、大きく成長できたと思います。又、社会人としてのマナーも身に付けられたと思います。そんな大切な事を学べた九里学園に感謝の気持ちでいっぱいです。そして先生や友達にも、本当に感謝しています。三年間、ありがとうございました。



卒業するみんなへ

担任
佐藤 健太

卒業、おめでとう！今、入学した頃を思い出しながら、立派に成長した姿を見ていると、共に過ごせたことに幸せを感じます。ここまで支えていただいた全ての方々に感謝いたします。みんなが入学したのは、東日本大震災から一年が経った頃でした。みんなには「生きる」ということを伝えてきたつもりです。そして、「礼」と「譲」の精神を伝えてきたつもりです。これからの人生で、生き方が難しい時があるかもしれませんが、そんな時こそ、高校時代に身に付けた考え方を活かし、力強く生き抜いて欲しいと思います。最後に私の好きな言葉を贈ります。「お先真っ暗というのは、すげー前向きな言葉だよ。誰も見たことがない、素晴らしいものが隠れているかもしれない。真っ暗っていいねえ。」さあ、元気に旅立っていきいけ！

健太先生へ

石河 遥香

不安いっぱいの中、入学したあの日から、三年が経とうとしています。私は三年間、佐藤健太先生に担任をうけもって頂きました。いつも私を気にかけてくださり、毎日がとても楽しく充実していました。それは健太先生のおかげです。心から感謝しています。私だけでなく、三―三のみんなを成長させてくださった、健太先生。いつまでも若い先生でいてください。



私の三年間

藤巻 瑞季

入学して三年、あつという間にこの九里学園を卒業する日を迎えます。私の九里学園での三年間はとても充実していたと思います。友達ができるか不安ながらも行った宿泊HRや、寒さに耐えながら過ごした旧校舎の一年間、二年生では過酷な登山、沢山の自然と文化にふれた研修旅行、三年生では自分たちでプランを決めて学内旅行など本当に行事がいっぱい楽しかったです。クラスマッチや体育祭、学園祭ではクラスの仲も深められました。想像した高校生活とは違って勉強もすごく難しく大変だったけど、九里学園が私の中の最高の高校生活であり、一日一日が充実していたと思います。



ありがとう。(振り返り)

佐藤 愛

九里へ入学して、たくさんの先生方や友達そして後輩と陸上部の仲間という大切な存在ができました。友達や家族といるよりも陸上部と過ごす時間が多くて、思い出しきれない程の思い出があり、とても楽しく充実した三年間でした。汗をかき苦楽を共にした日々の全てが私の思い出です。私と出会ってくれて、ありがとう。





ありがとう



担任
遠藤 愛

みんなと過ごした三年間は、笑って、泣いて、怒ってと、忙しくも楽しく、とても充実した日々でした。私にとって初めての卒業生ということもあり、特に想い入れが強い学年だったので、みんなこの三年間を一緒に過ごすことができたこと、そして、成長を近くで感じる事ができたことを本当に嬉しく思います。みんなの成長とともに、私も成長させてもらいました。

そんなみんなに担任から伝えたいこと。
どんなに辛く苦しくても、あなたたちには支えてくれる仲間がいます。三年間を一緒に過ごしてきた友達や仲間たちは一生の宝です。大切にしてください。
これからも人のために、誰かのために行動できる、そんなみんなであってください。
どんなときでも感謝の気持ちを忘れずに過ごしてください。
人生これから。みんなの活躍を期待しています。

卒業おめでとう!!そして三年間ありがとう。

ありがとう

神藤 絵莉

九里学園を選んで本当に良かったと思っています。こんなに素敵な友人や先生方に出会うことができ、幸せを感じています。

また、部活動では同じ目標に向かって切磋琢磨し、仲間の絆という素晴らしいものを得ることができました。

これからは今以上に努力し、応援してくれている家族や友人、先生方に恩返し之意を込めて頑張っていきます。

ありがとう。



「ありがとう」

真木葉留那

私にとってこの三年間は、とても充実したものでした。期待と不安を胸に九里の門をくぐったことが昨日のように思えます。振り返ってみると、私の高校三年間は委員長や部長、勉強など、どんな辛いことにおつかった時も、すぐ隣には支えてくれる先生方や仲間がいました。たくさん感謝と共に、九里で得たことをこれから先に生かしていきたいと思っています。

成長できた三年間

佐藤 美咲

高校生活は成長の場でした。勉強はもちろん国際交流に力を入れて三年間を送ってきました。悩んだ時、つまずいた時には支え励まして下さった先生方、仲間、そして家族のお陰で入学当初よりも一回りも二回りも大きく成長できました。そして、将来は三年間で培ってきた力を発揮し、九里の先生方のような生徒に寄り添えるような教諭になれるように努力します。



逃げるな!!



担任

佐藤 秀人

自分がどれだけ

わがまま だったか

自分がどれだけ

甘かったか

これから生きていく社会
(集団) で痛感しなさい。そして、その社会(集団)で
評価されたら
学校に遊びに来なさい。

学んだこと

舟山 美里

この三年間を振り返るととても短い
ものでした。入学した時は、みんなになじむこと
ができるか不安でしたがすぐ友達もで
き、なじむことができました。二年次
に行った沖縄研修旅行では、戦争の悲
惨さや、今ある平和のありがたさを学
ぶことができました。部活動では、書道部に入部しました。
集中力が高まり、模写力が向上しまし
た。また三年次には部長という立ち場
になり、みんなをまとめ、引っ張る力
を身につけることができました。九里で学んだことや身につけたこと
を活かし、社会に貢献できるような大
人になっていきたいと思っています。
三年間ありがとうございました。

ありがとう

横山 葵



「喜怒哀楽」がたくさんの三年間。今
思えば、さりげない毎日がとても充
実していたと思います。九里学園に入
学し、个性的で楽しい先生方や友達に
出会いました。たくさんの行事でも、
仲間と団結して目標に向かって挑戦す
ることが大好きでした。嫌な事があつ
ても逃げず向き合えてた自分は成長で
きたのかと思います。どんどん新しい
自分を発見させてくれた環境に感謝で
す。そしてこんなには素敵な出会いにも
感謝の気持ちでいっぱいです。たくさ
んの困難が合った三年間でも、最後は
こんなあったかい気持ちにさせてく
れてありがとう。毎日がキラキラした
三年間楽しかったよ。私と関わってく
れたたくさんの方々へありがとうござ
いました。

三年間の思い出

安部あずさ

三年間陸上を通して学んだことは、
挨拶です。私にとつての挨拶は人との
関わり、コミュニケーションをとるた
めに必要なものだと思います。挨拶を
することにより、挨拶される側の気持
ち、自分が気分がよくなります。良い
一日をスタートさせられると思います。
九里学園の陸上部は先輩、後輩ともと
ても仲良く皆、楽しく部活をしていま
した。お互いが支え合い、励まし合い、
大きな壁を乗り越えてきました。辞め
たいと思うことも沢山ありました。でも
、仲間に支えられ辛くても乗り越え
ようと思えることが出来ました。私は
仲間にはとても感謝しています。





世界に通用する
日本のリーダーに
なれ!



担任
高橋 元樹

「自分のことよりもまずは、相手のこと、そして、日本国民、世界人類のことを第一に考えて行動できる、人の心の痛みがわかる日本のリーダーを育てる」という決意をして、入学式を迎えたのが昨日のことのようです。あれから早くも三年が経ち、高校生活の様々な体験を通して、みんな心身ともに大きく成長したと実感しています。雪道を歩きながら、学ぶこと、そして、生きるとは雪道を歩くことと似ていると感じました。新雪の上をパイオニアが勇気を持って苦労して足跡をつけて歩いてゆくと、次の人がその足跡を頼りにしながら進んでいき、それがやがて道になる。厳しい環境におかれて、人はたくましく鍛えられる。雪国米沢の九里で学んだ君たちにはその素地が十分に備わっている。「雪道を歩くが如く、人生をたくましく歩んでゆけ!」

可能性

嵐 結愛

三年間で様々な経験をさせて頂きました。ハワイ研修旅行を始め、インド派遣や生徒会副会長の役職を通して得たものはたくさんあります。表現力を始め、責任感、協調性を身に付けることができました。それらは、進路選択にあたり、私に大きな自信を持たせてくれました。挑戦しようとする勇氣一つで、視野は無限に広がります。九里は可能性を広げる場です。



高校での私

市川 史奈

高校での生活は、充実しているという訳ではありませんでしたが実りある日々でした。中でも、生徒会活動は私にとって重荷でありましたが、それだけの成長もみられたと感じます。体操部に入部したのも今思えば、中々のチャレンジャーでした。

しかし、これが私でした。生徒会で体操部。そんな高校生活は悪くありませんでした。



充実した三年間

鈴木 菜々

九里学園で過ごした三年間は、充実していました。部活は陸上競技部に所属し、最後まであきらめずに走り続けられたことは、一生私の中で自信になっていくと思います。そして、友達と笑いあった充実した日々は、宝物になりました。支えてくださった周りのの方々のおかげで、充実した三年間を送ることができました。本当にありがとうございました。



卒業おめでとう！

保護者からのメッセージ

九里学園の生徒の父兄として

三年一組 幹事長 鈴木 昭博

私は、特に親として野球部に関わる事ができました。目標を決めて、目標達成のために自分達で考え工夫して努力する選手。一緒に目標に向かう部長先生及び監督、コーチの姿に応援に力が入ったものです。校風がいいのか、先生方が良いのか、とても心地良い雰囲気のある学校だと思えました。この学校に関わる事ができて本当に良かったと思います。ありがとうございます。

これから

三年二組 結城 栄俊

卒業おめでとうございます。卒業出来る喜びと共に感謝の気持ちを忘れずに前に向かって行きましょう。これから就職の道に進む人、進学の方を進む人、もしくは私達では想像出来ない位の野望や夢を叶えるため邁進する者等、さまざまな形で世の中に入れて行きます。人は環境が変われば、「これからもしよう」や「これからはししよう」と思うはずで、「これからは」と思う場合は大抵、高校生活までに出来た自分にとってプラスの思考や行動が主で、「これからは」と思う場合は高校生活までに出来なかった思考や行動だったりします。卒業し全員が全く新しい環境の中で生活を送る事

にあたり、これからの大事にそして楽しく生きるための学園生活の中で見つけた「自分らしさ」と「これからは」と思えるプラスの思考や行動と「これからは」と自分を磨き上げる思考や行動を積み重ねて素敵な大人になって下さい。誰もが、過去と他人は変えられないけれど、未来と自分を変えられるものなのです。

卒業生の皆さんへ

三年三組 中村真由美

ご卒業おめでとうございます。三年間の高校生活を終え、それぞれの道に向かって希望に胸をふくらませていることと思います。これからの道のりには、うれしいことや楽しいことばかりではなく辛いこともたくさんあるでしょう。この九里学園で学んだ「礼と譲」の精神を忘れず、自分の決めた夢に向かって一歩一歩進んでほしいと思います。

歩く道

三年四組 猪野 国雄

子育てとは山登りのように上がったり、下がったり、時には疲れて休むこともあれば、楽しく、嬉しく、感動し、達成感を味わうこともできます。初めは子供をおぶって、そして手をひいていた私達は、いつの間

にか共に並んで歩いていました。これからは子供の歩んでいく姿を後ろから見守っていきます。九里卒業生の輝ける未来を祝して、卒業おめでとう。

自分をもっと知るために

三年五組 鈴木 芳治

君達には世界を見てきてほしい。これから自分の道を切り開くのは自分自身。これまで九里で学んだ国際交流を生かし、世界に出て自分が暮らす日本がどれ程素晴らしい国か、肌で感じて来て欲しい。そして日本人である事の誇りを胸に、これからの日本を担って行って欲しい。無限の可能性に満ちている君達の未来に幸多かれ！卒業おめでとう！

感謝の気持ちで

三年六組 田中 昭嘉

三年生のみなさん、学園生活はどうだったでしょうか。入学時に校長先生の挨拶で「高校生活は義務では無くて、みなさんで決め、御両親のサポートがあり感謝の気持ちが大切です。」と言われたと思います。御両親や先生に感謝の気持ちが大切です。将来に向け色々な問題が出て来ると思いますが、「感謝の気持ち」を持って頑張ってください。

後輩へ 贈ることば

後輩にむけて

三年一組 小池 達也

私が九里学園で楽しい生活を送ることができたのも、後輩たちのおかげです。部活で苦しかったときは野球部の後輩が応援してくれ、そして共に戦ってくれました。学校行事では全員が一つになり、すばらしいものを作り上げることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

これから部活にかける人などさまざまあると思います。最後は笑顔で終われるように、今を大事に、仲間を信じて部活や行事などの学校生活に取り組んでください。そして、自分の夢を叶えられるようにがんばってください。

後輩のみなさんへ

三年四組 植木 真理

高校三年間というものは本当にあっという間でした。中学校を卒業し新たな決意を胸に、校長先生と堅く握手した入学式がつい先日のように感じます。三年間というものは長いようで、とても短いものです。後輩のみなさんにもぜひ、充実した高校生活にするために、仲間と時間を大切に何事にも

全力で取り組んでほしいと思います。今の自分次第で、良くも悪くも必ず未来の自分へとつながっていきます。チャレンジ精神を忘れずに、どんどん自分の可能性を広げていって下さい。卒業してもみなさんの活躍を心から応援しています。

先輩に 贈ることば

三年生の皆さんへ

二年一組 村上 佳希

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私達二年生は約二年間先輩方の背中を追いかけて高校生活を送ってきました。行事や部活動の時、みんなの先頭に立って活動している姿がとてもかっこ良く、私達のあこがれであり目標でもありました。私達も三年生のように、あこがれの的になれるよう頑張ります。二年間、本当にお世話になりました。

感謝の気持ち

二年四組 高瀬 結耶

先輩方、ご卒業おめでとうございませう。私達は、いつも先輩方の背中を見ながら、学校生活・部活動に励んできました。先輩方が卒業すると思うと不

安でなりません、教えて頂いた事を、一つずつ思い出しながら、これからの学校生活を、送っていきたいと思います。

これからも、先輩方のご活躍を期待しています。今まで、本当にありがとうございました。

感謝の気持ち

一年一組 中嶋 航生

三年生の皆さん、卒業おめでとうございませう。本当に一年間というのは、あっという間に感じます。三年生とは二つも学年が違っていたので、あまり関わったことが正直ありません。ですが、私たちが入学して、分からない事があれば言葉ではなく、お手本となる行動で教えてくれました。学校では最

高学年として盛り上げたり、行事の運営など、さまざまな場面で先頭に立ち、引つ張ってくれていました。また、部活動にも熱心でした。私は野球部なので、野球をしていた先輩達を見ると、レベルが高くとてもかっこよかったです。は、今でも印象に残っています。最後の大会で、試合終了まで諦めなかったあの姿は、とても感動しました。そんなおもしろく、厳しく、優しく、そして何より元気があった三年生が、自由登校になって、学校からいなくなってしまう時は、やはり何か寂しく、静かでした。それくらい、三年生の存在は大きかったのだと思います。そんな

な三年生の先輩達には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

お手本を見せて下さって ありがとうございます。

一年五組 鈴木マリナ

三年生のみなさんには、入学してから今まで、たくさんお世話になりました。まず教育週間では、校歌を教えてもらったり、レクリエーションなどの、楽しい時間をつくっていただいたりし、おかげでクラスのみんなとの仲を、深めることができました。

部活動では三年生が部の中心となつて、私達を常に引っぱって行って下さいました。先輩方が、本気で頑張っていた姿を見習って、私達も頑張ります。掃除では、いつも良いお手本となつて、清掃にはげんでいらつしゃいました。私達が二年生になったら、先輩達のように、お手本を示していけるようになります。

先日の進路の講話では、これからの私達に必要なことを、教えていただきました。特に今から出来る事を、しっかりとやっていきたいと強く感じる事が出来ました。今まで様々な行事で、学校を盛り上げて下さった三年生のみなさん、本当にありがとうございました。



平成二十六年 第三学年褒賞受賞者

() 内の数字はクラス名

学習活動優秀賞

- 奥山 大樹(1) 小池 達也(1)
- 鈴木 悠介(1) 高木 慎之介(1)
- 高橋 理仁(1) 日詰 悠介(1)
- 高橋 遼也(2) 竹股 蓮(2)
- 遠藤 明(3) 岡本 舞(3)
- 加藤 千明(3) 船山 のぞ美(3)
- 吉田 菜穂(3) 植木 真理(4)
- 神藤 絵莉(4) 草野 雅稀(4)
- 酒井 奈緒美(4) 高橋 涼楓(4)
- 鳩 双葉(4) 真木 葉瑠那(4)
- 佐藤 瑞希(5) 中村 沙樹(5)
- 赤間 竜也(6) 菊地 哲也(6)
- 佐藤 雄大(6) 鶴巻 彩花(6)
- 鶴巻 里菜(6) 丸山 真衣(6)

特別教育活動 (優秀賞)

◆バレーボール部

- 中山 汐里(3) 佐藤 真優(4)
- 鈴木 美南海(5) 後藤 里緒(6)
- 須貝 若葉(6) 須貝 双葉(6)
- 二宮 彩里菜(6)

◆陸上競技部

- 佐藤 澄人(1) 高山 駿太(2)
- 遠藤 陽子(3) 大河原 歩美(3)
- 佐藤 愛(3) 丸山 雛子(3)
- 横尾 はるか(3) 小笠原 奈々(4)
- 安部 あずさ(5) 佐藤 雄大(6)
- 高橋 菜々子(6) 丸山 真衣(6)

◆硬式野球部

- 奥山 大樹(1) 小池 達也(1)
- 齊藤 葵瑠(1) 鈴木 悠介(1)
- 伊藤 孝浩(2) 川島 僚太(2)
- 川又 諒真(2) 今野 景太(2)
- 鈴木 諒(2) 高橋 勇人(2)
- 高橋 憂也(2) 高橋 遼也(2)
- 竹股 健治郎(2) 結城 俊公(2)
- 渡部 健治郎(2) 渡部 峻(2)
- 高橋 佳維(2)

◆女子バスケットボール部

- 伊藤 晴香(3) 酒井 奈緒美(4)
- 佐藤 瑞希(5) 渡部 千花(6)

◆水泳部

- 長沼 暦(1) 遠藤 史織(3)

◆体操部

- 市川 史奈(6)

◆新聞部

- 新野 真由(4) 樋口 優香(5)

◆吹奏楽部

- 遠藤 麻佑(3) 志賀 詩歩(3)
- 佐藤 美優(3) 船山 のぞ美(3)
- 三浦 綾華(3) 高橋 真麗奈(4)
- 水野 加奈子(4) 中村 沙樹(5)
- 吉水 舞(6)

◆書道部

- 鳩 双葉(4) 舟山 美里(5)

◆生徒会執行委員

- 卯月 優介(1) 平 大貴(1)

鳥貫 翔大(1) 本田 柊斗(1)

- 今野 景太(2) 鈴木 諒(2)
- 結城 俊公(2) 遠藤 史織(3)
- 菊地 亜咲弥(3) 佐藤 愛(3)
- 遠藤 陽子(3) 佐藤 美優(3)
- 吉田 菜穂(3) 植木 真理(4)
- 佐藤 美咲(4) 酒井 奈緒美(4)
- 嵐 結愛(6) 市川 史奈(6)
- 樋口 知希(6)

◆保健厚生委員会

- 後藤 里緒(6)

◆図書委員会

- 内藤 莉菜(5) 江部 ひふみ(6)

特別教育活動 (努力賞)

◆バドミントン部

- 石田 隼人(1) 遠藤 紘貴(1)
- 鳥貫 翔大(1) 相馬 瑠伊(2)
- 岡本 舞(3) 高橋 彩乃(3)
- 猪野 敦子(4) 小黒 遥(5)
- 嵐 結愛(6) 高山 春花(6)
- 梅原 英里華(6)

特別教育活動 (功績賞)

◆陸上競技部

- 石河 遥香(3)

特別教育活動 (功劳賞)

◆陸上競技部

- 鈴木 菜々(6)
- 吉田 菜穂(3)
- 情野 匡紀(2)

◆スキー部

◆バレーボール部

中村彩乃(3)

◆卓球部

我妻秀貴(1) 後藤貞吉(2)
白田里恵(4) 齋藤瑠莉奈(5)
須藤麗(5) 本田一馬(6)

◆男子バスケットボール部

高橋理仁(1) 小坂蓮太郎(2)
高橋彩花(5)

◆ソフトボール部

横山凜奈(3) 遠藤友里(4)
小野友実(4) 神藤絵莉(4)
草野雅稀(4) 村山奈々(5)

◆陸上競技部

小関滯人(1) 嵐田雄樹(2)
我妻崇(2) 菊地哲也(6)

◆硬式野球部

阿部貴大(1) 衣袋瑠星(1)
小山田光希(1) 佐藤大志(1)
日詰悠介(1) 結城寿教(1)
橋本大輝(2) 布施勇太(2)

◆弓道部

本田柊斗(1) 加藤千明(3)
井澤智穂美(4) 鈴木真由紀(5)

◆サッカー部

平大貴(1) 笹木雄輝(1)
田中翔太郎(6)

◆テニス部

入沢沙樹(3) 関優香(3)
星彩翔(3) 鶴巻彩花(6)
鶴巻里奈(6) 樋口知希(6)

◆剣道部

堀之内司(1)

◆JRC部

遠藤明(3) 真木葉瑠那(4)
植木真理(4) 安藤清楓(5)
大木奈々(5)

◆生活科学部

近野愛(4) 矢木澤美佳(4)
舟山千夏(5) 永井聖(5)

◆英語部

平賀史歩子(6) 江部ひふみ(6)

◆茶道部

金子真美(6) 岡崎里歩(6)
大滝百花(6)

◆文芸部・イラストアニメ愛好会

新野真由(4) 内藤莉菜(5)

◆書道部

遠藤まゆ(4) 根津可奈子(4)
酒井梨奈(5)

◆ダンス部

菅原瑞季(4) 長谷部朱里(4)

須藤はるか(5)

三年間皆勤賞

阿部貴大(1) 奥山大樹(1)
高橋佳維(2) 竹股蓮(2)
遠藤史織(3) 佐藤優(3)
高橋真麗奈(4) 水野加奈子(4)
矢木澤美佳(4)

一年間皆勤賞

遠藤紘貴(1) 小池達也(1)
笹木雄輝(1) 鳥貫翔大(1)
鈴木悠介(1) 日詰悠介(1)
我妻秀貴(1) 川又諒真(2)
相馬瑠伊(2) 高橋勇人(2)
高橋憂也(2) 布施勇太(2)
結城俊公(2) 渡部健治郎(2)
伊藤晴香(3) 遠藤麻佑(3)
大河原歩美(3) 岡本舞(3)
丸山雛子(3) 横山凜奈(3)
猪野敦子(4) 遠藤まゆ(4)
小黒遥(5) 佐藤瑞希(5)
三條静香(5) 鈴木美南海(5)
内藤莉菜(5) 中村沙樹(5)
舟山千夏(5) 赤間竜也(6)
金子真美(6) 後藤里緒(6)
佐藤雄大(6)

精勤賞

石田隼人(1) 衣袋瑠星(1)
佐藤大志(1) 高橋理仁(1)
本田柊斗(1) 結城寿教(1)
本田雄樹(2) 伊藤孝浩(2)
嵐田雄樹(2) 鈴木諒(2)
川島僚太(2) 橋本大輝(2)
情野匡紀(2) 橋本大輝(2)
入沢沙樹(3) 遠藤陽子(3)
加藤千明(3) 三浦綾華(3)
吉田菜穂(3) 井澤智穂美(4)
遠藤友里(4) 神藤絵莉(4)
草野雅稀(4) 佐藤真優(4)
佐藤美咲(4) 棚部鈴花(5)
永井聖(5) 舟山美里(5)
村山奈々(5) 嵐田雄樹(5)
梅原英里華(6) 岡崎里歩(6)
菊地哲也(6) 須貝若葉(6)
高橋菜々子(6) 田中翔太郎(6)
鶴巻彩花(6) 鶴巻里菜(6)
二宮彩里菜(6) 平賀史歩子(6)

読書感想文優秀賞

○看護の力を読んで 加藤千明(3)
○食は宝 神藤絵莉(4)
○「悪」の大切さについて 佐々木夏葉子(4)
○戦争の真実 丸山真衣(6)

平成二十六年年度 進路状況について

進路指導課長 遠藤 英

今年度の進路希望は、進学が三分の二、就職が三分の一と、例年とほぼ同じ割合です。

大学・短大進学は全体の三二%を占め、分野は文系が七割強、理系・体育系が三割弱となっています。学部は多様ですが、社会・経済等の社会系分野が進学者の約半分を占め、次いで幼児教育分野、医療分野と続きます。例年に比べ、福祉・体育・家政系分野が少ないのが今年度の特徴といえます。入試方法では、指定校推薦・AO入試を合わせた人数に近い数が公募推薦で受験していますが、近年は公募推薦の競争率が高くなってきたており、苦戦が強いられています。

専修学校進学は、全体の三七%を占めます。医療看護分野が圧倒的に多く、調理・福祉・美容系と続きます。情報・事務系が一名しかいないこと、幼児教育分野の希望者が大学・短大にシフトしていることが特色です。

就職は、県内は昨年度比一・四倍の求人が出されました。ほぼ全産

業で求人が増え、生徒にとつては企業が選べ、内定のいただきやすい年だったと言えます。アベノミクスの影響と見られますが、先行きは不透明のままと言われており、入社後の自己向上努力が長期雇用獲得の鍵になることでしょう。また、県外は本校との信頼関係が厚い企業から今年も求人を頂くこと

ができました。加えて、とくに関東方面からオリンピックをにらんだ求人が多く出ました(とくに運輸・サービスなど)。

◆H26年度卒業生の進路別状況◆

平成27年1月30日現在

	就職希望者			進学希望者				家事その他	合計
	県内	県外	小計	大学	短大	専修各種	小計		
男子	14	7	21	19	3	25	47	5	73
女子	18	15	33	23	11	42	76	1	110
合計	32	22	54	42	14	67	123	6	183

◆就職関係(内定状況 公務員を除く)◆

	県内希望				県外希望				合計			
	学校斡旋	学校斡旋内定者	縁故	縁故内定者	学校斡旋	学校斡旋内定者	縁故	縁故内定者	学校斡旋	学校斡旋内定者	縁故	縁故内定者
男子	7	7	6	6	5	5	0	0	12	12	6	6
女子	17	17	1	1	13	13	2	2	30	30	3	3
合計	24	24	7	7	18	18	2	2	42	42	9	9
内定率%	100%				100%				100%			

※公務員は男子県内1・県外2(計3)採用内定3名(100%)

◆進学関係(合格状況)◆

	大学		短大		専修各種		合計	
	希望者数	合格者数	希望者数	合格者数	希望者数	合格者数	希望者数	合格者数
男子	19	13	3	1	25	20	47	34
女子	23	19	11	11	42	35	76	65
合計	42	32	14	12	67	55	123	99
合格率%	76%		86%		82%		80%	



PTA服装委員会活動報告

委員長 小笠原英美子

服装委員会は五月に総会を開き今年度の活動を決めました。主な活動は登校時間に立哨し朝のあいさつをし登校の様子を見ることが、制服の着こなしを確認すること。また現在の制服についての改善する点はないか話し合うこと。この二点が主な活動となりました。立哨は、六月七月九月十月十一月に実施しました。実施した場所は学校の生徒昇降口前及び、川西町の保護者による羽前小松駅前でした。委員全員が、各自の都合に合わせて参加していただきました。生徒会のメンバーも一緒に立哨してくれました。登校の様子は、皆さん着こなしも良く明るくあいさつをしてくれたので、毎回楽しかったです。ご協力いただいた委員会の皆様、一年間ご苦労様でした。

編集後記

三年生の皆さん、卒業おめでとう。今年度最後の学園通信二六二号は三年間の思い出が詰まっております。先生方・生徒・保護者の方々からの熱いメッセージが込められています。三年間という長いようであつたという周の高校生活を終え、これからは、自分で人生を切り開いて進んでいかなければなりません。自分の考え、気持ちに自信を持ち、辛くなったときはこの学園通信の先生方、友達からのメッセージを読み返してみてもどうでしょうか。きっと、力になるはずですよ。これからのみんなの活躍期待しています!

今年度広報委員を引き受けて下さった保護者の皆様ありがとうございました。様々な面で支えられ、毎回とても楽しく会議を進める事ができました。感謝申し上げます。

広報委員会担当 我妻 孝浩